

SDNET-300 先見情報 No.66

『G ゼロ時代の地政学的リスクと 2016 年の世界展望』

世界各地で地域紛争やテロの脅威などによる地政学的リスクが高まっている。不安定要因が増すほど経済の先行きの見通しは難しくなる。こうしたなか地政学的リスク分析により、リーダーなき世界（G ゼロ）時代に私たちは世界情勢をどのように見るべきか。

■地政学的リスクとは■

地政学的リスクは、ある特定地域が抱える政治的・軍事的・社会的な緊張の高まりが、地球上の地理的な位置関係により、その特定（関連）地域の経済、あるいは世界経済全体の先行きを不透明にするリスクのことである。また、地政学とは、地理的な位置関係が政治や国際関係に与える影響を研究する学問をいい、市場（マーケット）でも幅広く認識され、使用されている。

地政学的リスクが高まれば、地域紛争やテロへの懸念などにより、原油価格など商品市況の高騰、為替通貨の乱高下を招き、企業の投資活動や個人の消費者心理に悪影響を与える可能性がある。

また、その地域や民族が持つ行動原理を知るには現在に至る歴史を知ること不可欠である。

地政学的に世界経済を読み解いていく。

世界は今、創造的破壊の時代を迎えている。中国の台頭が世界の地政学的環境を大きく揺るがしている。

一方、欧州は不確実性が高まっている。過激派組織「イスラム国」（IS）という強力なテロ組織が生まれ、テロの対象を欧州にまで拡散し始めた。同時に記録的な人数のシリア難民が日々ドイツを目指して移動している。イラク、シリア、リビア、イエメン、アフガニスタンの 5 カ国が国家運営に失敗した現在、中東では今後さらに破綻国家が増える可能性がある。

地政学的リスクは 1994 年以来、かつてないほどボラリティリティー（変動性）が高まっている。政治の役割が増し、勝ち組になるか負け組になるかを政治が左右している。

□脆弱化する EU の結束力

欧州連合（EU）が、脆弱性を高めている。これは経済的な話ではない。ギリシャ危機が発生したときの EU には政治的指導力があり、結束して危機を乗り切った。その政治的指導力が現在、各国で弱体化している。それを象徴するのが英国と中国、フランスとロシア、ドイツとトルコという、1 年前にはなかった関係性の出現だ。

欧州と米国の関係が壊れ始めているのを象徴するのが、アジアインフラ投資銀行（AIIB）をめぐる英国と中国の動きだ。AIIB への参加や原発新設計画における中国企業の参加など、経済関係の強化で合意した。英米間で交わされていた特別な 2 国間関係という言葉が、英中間にも誕生した。

11 月 13 日にパリで起きた IS によるテロは、フランスの「9・11」ともいえる。宗教や人種に対する寛容さが揺らぎ始めている。フランスは、北大西洋条約機構（NATO）ではなく、ロシアとの連携を選択した。これは NATO の弱体化を示すものである。

EU におけるドイツは、年間 100 万人の難民の受け入れを表明した。しかし他の EU 加盟国が追随しなかったため、トルコに打開策を求めた。しかし EU は中東の混乱に対処しきれないであろう。

□中国の台頭でハイブリッド経済時代に

EU における指導力の低下は、ユーロ投資にとって懸念材料だ。しかし世界規模でみた場合、一番重要なのは中国経済の台頭だ。中国は、世界で一カ国だけマーシャルプランに匹敵する戦略ビジョンを持ち、豊富な投資余力を持つ国だ。

国際通貨基金（IMF）も世界銀行も、貸し出し条件は厳しい。中国は国営企業に見返りがあれば、条件を緩めるだろう。そして、IMF ですら基軸通貨に中国人民元を認め、その比率は日本円よりも高くなった。これは米国主導の自由主義市場の終焉（しゅうえん）を意味している。世界経済は自由主義経済陣営と、国家資本主義主導の国営グローバル企業というスーパーパワーが共存する「ハイブリッド経済時代」に突入している。未曾有（みぞう）の変革期、それが現在の世界である。

□地政学的リスクの少ない北米

米国の北にはカナダが、南にはメキシコがある。北米は現在のところ数少ない地政学的リスクが低い地域といえる。不動産、株式、債券などを通して、世界の資金が北米に集まっているのは、地政学的リスクが低いからである。

ブラジルは現存、政局の混迷を深めているが、数年後は成長軌道を取り戻すだろう。他の南米諸国も資源

安などに苦しんでいるが、やがて「西側世界」に戻り、世界経済の成長ドライバーに復帰すると考えている。
一方、アジア（日本、中国、インド、フィリピン、インドネシアなど）では政治の指導力が機能しており、リスクそのものを見通しやすい。

□石油依存の経済は破綻する

5年前の原油高のときよりも、原油安となった現在は、リスクをさらに高めている。
中東の盟主であるサウジアラビアですら脆弱性が増しており、国家としての存続の理由を見つけれない。
石油だけに依存した経済は破綻するリスクが大きい。

先日開催された第21回国連気候変動枠組み条約締結国会議（COP21）では合意が形成された。Gゼロ時代には自由主義国家の力は弱くなるが、ビル・ゲイツがグローバル企業のCEOたちを引き連れてパリでCOP21に圧力をかけたように、**地方自治体や企業（経営者）が、リーダーシップの不在を埋める存在**になる。
（⇒Gゼロ時代だからこそ、“求められる企業家的リーダー”）

Gゼロ時代とはまさに政治と市場とが融合する時代である。

□イアン・ブレマー氏が予測する「2016年世界的10大リスク」

1969年11月12日）アメリカの政治学者、コンサルティング会社ユーラシアグループの社長。
チューレーン大学卒業。1994年、スタンフォード大学で修士号および博士号取得（旧ソ連研究）。スタンフォード大学フーバー研究所
研究員を経て、1997年からワールドポリシー研究所上級研究員。1998年に28歳でユーラシアグループをニューヨークに設立。

①同盟の空洞化

過去70年間にわたって最重要だった大西洋同盟は弱体化した。ロシアのウクライナ侵攻やシリアでの紛争により、米欧間の亀裂が深まった（AIIBへの欧州諸国の参加など）。

②閉ざされる欧州

2016年の欧州は開放と閉鎖の両方向に引き裂かれ、格差と難民とテロと政治圧力が欧州の理念に立ち塞がる。

③中国の波紋

たとえ穏やかなものであっても、中国の発展は世界中に波紋を投げかける。他の国々を苛立たせる。

④ISと仲間たち

世界最強のテロ集団ISは、不適切な対応も相まってナイジェリアからフィリピンまで賛同者を広げている。

⑤サウジアラビア

サウジアラビア王国は、中東での攻撃姿勢を強めるであろう。サウジアラビアの課題は制裁が解除されるイラン。

⑥テクノロジストの台頭

シリコンバレー企業からハッカー、引退した篤志家まで、野心的なテクノロジストたちの台頭が、政策や市場の不安定さを増している。

⑦予測不可能な政治家たち

ロシアのプーチン、トルコのエルドガン、サウジアラビアのサルマン副皇太子、ウクライナのポロシェンコなど、指導者が国際政治を掻き回す。

⑧ブラジル

ジルマ・ルセフ大統領が弾劾の生き残りを目指す間に、国家の危機は深まる。

⑨選挙が足りない

2014年、15年は新興市場での選挙が相次いだ。ところが16年は機会が少なく、国民の不満を深める。新興国は過去10年の収入増加により、国民の要求水準が高まっている。

⑩トルコ

エルドガン大統領は、現行の議会制を大統領制に替えようと図る。しかしビジネスや投資環境は悪化。クルド勢力制圧やIS掃討の見込みは薄く、逆にテロ攻撃の危険が高まる。

（出典：ユーラシアグループ「2016年のトップ・リスク」）

■求められる企業家的リーダー

豊かな生活環境を維持できる、地域に根ざした産業を興し、人と情報の交流を活性化し、さらに自然環境を保全していくためには、企業活動だけでなく、行政においてもコミュニティにおいても現実的問題解決に取り組んでいくリーダーの存在が不可欠である。

リーダーの基本的役割は従来の行政、経営や自治に対しての革新である。

■企業家に求められるリーダーシップ

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ①臨機応変（先入観に把われない） | ②総合性と先見性（大局観と洞察力） |
| ③誠実さと決断力（平常心の源） | ④人の心と力を活かす（人心を掌握し、人と共に生きる） |
| ⑤使命観に導かれた経営目的の創造 | |

以上